

人間の安全保障における自然環境保全の重要性

SDGsウェディングケーキ図が示すように、人々の社会・経済などの営みは生物圏（Biosphere）を土台として成り立っています。人間の活動が自然環境を破壊すれば、この土台が急速に減少・劣化し、人間の生存や暮らしに対する深刻な脅威となり得ます。生物圏の保全・回復や強化に取り組むことは、海（SDGs14）・陸（SDGs15）の豊かさ、そして人々の命や暮らしを守るとともに、他のSDGs目標の達成においても欠かせない基盤を強化し、人間の安全保障の実現に大きく貢献するものです。



SDGsウェディングケーキ図
© Azote for Stockholm Resilience Centre, Stockholm University CC BY-ND 3.0.

人間の安全保障のアプローチの実践を通じたJICAの貢献

自然の恵みに依存して生活する多くの途上国の人々は、気候変動や環境問題の影響を特に受けやすい状況にあります。そこでJICAは、脆弱な人々の保護とエンパワメントのアプローチを組み合わせることで、地域の文化や伝統を尊重しながら、自然環境と共生する社会の実現への貢献を目指しています。

保護の観点からは、その地域に適した環境保全の取り組みの制度化とその支援を通じて、環境ガバナンスの強化に取り組んでいます。また、人々が自らの選択する力を強めることを目的とし、エンパワメントの視点を重視しています。具体的には、先住民を含む地域コミュニティとの協働を通じて、人々自らが自然環境を守りながら持続的な経済活動を行えるよう支援をしています。

さらに、国内外の資金やパートナーとの連携を通じてリソースを確保し、事業効果の拡大と持続可能性の向上も図っています。

SDGsへの貢献



SDGsゴール13「気候変動に具体的な対策を」、ゴール14「海の豊かさを守ろう」、ゴール15「陸の豊かさを守ろう」、特に以下のターゲットの達成に貢献します。

13.2：気候変動対策を政策、戦略及び計画に盛り込む

14.2：海洋・沿岸の生態系を回復させる

15.1：陸域・内陸淡水生態系及びそのサービスの保全・回復・持続可能な利用を確保する



アグロフォレストリー活動で中心的な役割を果たす女性グループ。270の村落を対象に森林保全活動を実施している（コンゴ民主共和国）



住民が積極的に参加し、土地利用の状況について話し合う様子（東ティモール）